令和７年度第４回　社会教育委員会議
議　事　概　要

１　開催日時：令和８年３月17日（火）　14:00-15:30
開催場所：八尾市立青少年センター３階　集会室
出席委員：中道委員・二宮委員・大槻委員・角田委員・吉野委員
赤松委員・山根委員（順不同）

２　議事案件

１　令和７年度第３回社会教育委員会議書面結果案の承認について
２　報告事項について
【生涯学習課】
①第30回八尾市こども会親善つな引き大会の結果報告について
②第33回こどもフェスティバルの実施について
【桂青少年会館】
③令和７年度桂青少年会館事業について
【安中青少年会館】
④令和７年度安中青少年会館事業について
【観光・文化財課】
⑤令和７年度八尾市指定文化財の決定について
【文化・スポーツ振興課】
⑥第15回八尾市小学生なわとび名人検定及び
第10回八尾市小学生チャレンジなわとび学年別認定会の結果について
【こども若者政策課】
⑦令和７年度八尾市はたちのつどいの報告及び次年度の開催予定について
３　その他について
【教育政策課】
・中学校の部活動改革について
【生涯学習課】
・令和８年度教育委員会事務局所管施設指定管理者選定スケジュールについて
【観光・文化財課】
・令和８年度文化財施設指定管理者選定スケジュールについて
【教育センター】
・府立八尾翠翔高等学校不登校児童生徒のための未来への一歩を踏み出す居場所「ほっとＳ」について

３　意見交換の概要（○：委員、●：事務局）

１　令和７年度第３回社会教育委員会議書面結果案の承認について
※全委員異議なし

2 報告事項について

〇「第 15 回八尾市小学生なわとび名人検定及び第 10 回八尾市小学生チャレンジなわとび学年別認定会」は重要な取り組みであるが、事業効果についての確認はされているか。

●なわとび名人検定の事業効果は、体力向上に関する具体的な数値として把握しているわけではないが、日々の練習や本番に向けた取り組みを通じて、子どもたちが目標を設定し、その達成に向けて粘り強く努力する姿勢が養われていると認識している。

〇なわとび大会の有効性を客観的に検証するためにはエビデンスの蓄積が重要である。なわとびに継続的に取り組んでいる児童とそうでない児童との間で、体力面などにどのような差が見られるかを比較するような調査の実施を期待する。

〇桂青少年会館の音楽室を利用しているが、設備が古いため更新があれば利用率が向上すると思う。

●桂青少年会館は、桂人権コミュニティセンター、桂老人福祉センターとの複合施設として整備される予定であり、その際に利用しやすい施設にしたいと考えている。

●安中青少年会館にもスタジオはあるが利用率が低い。今後、市民周知に努めたい。

〇中学校の部活動改革に関連して、吹奏楽部等では専門的な指導が継続的に必要であり、ボランティア指導者の役割は大きい。ボランティア人材の育成に努めてほしい。

〇中学校の部活動では、これまで指導を受けた生徒が卒業後に指導する立場で関わるという好循環を生み出すことが重要である。こうした人材の循環を継続的にするための仕組みづくりを検討してほしい。

3 その他について

●まず、中学校の部活動改革について意見を伺いたい。

〇中学校の部活動改革は良い取り組みだと思う。教員の負担軽減や生徒の自主性育成、地域の参画という「三方よし」の取り組みである。ただし、生徒への関わり方や保護者対応などへの配慮が必要であり、接遇を含めた基礎的な研修は必要だと考える。

●指導者の質の確保については研修実施により指導力向上を図り、現場での活動状況も適切に確認していく必要がある。今後、指導者の認定制度も取り入れたいと考えている。

〇中学校の部活動改革において専門家による指導は重要である。モデル事業に絵画クラブはないが、絵画についてもクラブ活動として広げてほしい。

●モデル事業として、チーム競技で人数を集めることが難しい種目と、これまで学校部活動になかった種目に取り組んでいる。モデル事業終了後に本格実施する際、他の種目の導入も検討したい。

〇私の地域ではダンスが盛んで、子どもたちも熱心である。ダンスでは指導者との相性が重要になる。そこで、「指導者との相性を確認できる体験入部のような仕組みはあるか。」、「活動拠点校が市域の中心ではないところが多いが、市内中心部に設けられなかったのか。」、「活動費が 3,000 円程度とのことだが、積算の根拠はあるか。」について、教えてほしい。

●まず、体験入部については、ボーリング大会のような「お試し体験」的なイベントを開催する予定である。次に、活動拠点校については、モデル事業では現時点で当該クラブ活動を実施している学校を拠点としている。本格実施する際には、市内中心部も含め複数拠点での実施を検討する。最後に、活動費については、事前に実施した保護者向けアンケートにおいて3,000円程度であれば妥当との意見があった。

○中学校の部活動改革について、資料のチラシの裏面に「教員の負担となっている」とあるが、ある調査結果では「部活動による拘束時間は長いが、大方の教員にとって心理的ストレスになっていない」との研究結果もあることに留意してほしい。次に、学校部活動の教育的意義について。学校部活動と地域クラブ活動の違いは学校管理下で行われるか否かにあり、けがをしたときの補償内容が異なる点から、地域クラブ活動に制限がかかることが懸念される。また、活動経費は全国的に3,000～5,000円程度であり、八尾市のモデル事業も同程度だが、継続性の確保を注視してほしい。

●まず、１点目の教職員の負担についてであるが、八尾市の事前アンケートにおいても、同様の回答結果がでている。また、八尾市では、希望する職員は指導を継続できるよう、兼職・兼業の仕組みについてもモデル事業内で実施しており教職員から理解を得ている状況である。次に、学校部活動の教育的意義について、地域クラブ活動として実施される場合においても、学校部活動の教育的意義が確保されるように指導に当たってもらうよう考えている。最後に、財源についてであるが、国の補助金や民間企業からの協賛金などを活用して、継続的に実施できる仕組みを構築したいと考えている。

○不登校児童生徒の支援において部活動が果たしてきた役割も無視できない。日本スポーツ協会が実施する総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の動きも注視する必要がある。

●部活動の教育的意義を大切にしつつ、生徒の多様なニーズに応える持続可能な環境構築が重要であると認識し、中学校の部活動改革に取り組んでいく。

○お試し体験的なイベントについて、１回の参加だけでは判断できない子もいるので、柔軟な対応を検討してほしい。

○地域の中学校の軽音楽部の指導を手伝ったことがあるが、私のように指導したい人が活動できる仕組みはあるか。また、部活動において勝敗を重視するのか、それ以外の価値を重視するのか確認したい。

●人材の発掘については人材ボランティアバンクなどの検討を進めている。部活動の指導では練習時間等に制約があるため、生徒の技術向上だけでなく協調性や主体性などの育成も重要であると認識している。

●次に、指定管理者選定スケジュールについて、意見を伺いたい。
※全委員特に意見なし

●最後に、府立八尾翠翔高等学校 不登校児童生徒のための未来への一歩を踏み出す居場所「ほっとＳ」について、ご意見を伺いたい。

○高校の施設内に不登校等の児童生徒の「居場所」を設けるのは素晴らしい取り組みである。今後も教育委員会、大阪府教育庁、八尾翠翔高校で連携して支援に取り組んでほしい。

●本事業については、２年前から議論しており、ようやくここまで取り組みを進めることができた。引き続き、小学生、中学生、高校生といった校種を超えて、子どもを大切にする誰一人取り残さない不登校児童生徒支援の充実を図りたい。

○八尾市では、不登校児童生徒の支援について、とても熱心に取り組まれている。私は、地域で「こども★はあとサポーター」として、校門等でのサポートをしており、引き続き、子どもたちの支援を行っていきたい。

●こども★はあとサポート事業へのご協力について、感謝する。引き続き、不登校等、学校に行きづらい、教室に入りづらい児童・生徒に対する支援をお願いしたい。

○「ほっとＳ」の取り組みは素晴らしいと思う。４月から開始されるとのことなので、市民周知についても、積極的に取り組んでいただきたい。

○今回、整備された場所が市内の中心部から離れていることから通いにくいのではという懸念がある。

●教育委員会では子どもの居場所づくりとして、青少年会館や教育センターのさわやかルームに加え、オンラインでの対応を行うなど、多様な支援に取り組んできたところである。委員ご指摘の場所的な課題については真摯に受けとめ、今後の展開を検討していきたいと考える。

●他に意見はないか。

○各コミセンで行われている地区生涯学習推進事業として行われているコミセン講座について受講料を値上げしてもいいから、回数を増やすことはできないのか。

●コミセン講座は学びのきっかけづくりとしての役割を担っており、講座終了後は、サークル活動への移行を促し、自主的な学びにつなげていきたいと考えている。

４　閉会